

言よひ宗次とさあらんよ夫我も汝門
とるらんといふ此事上聴小達一はま
はとも志は厚に感し思しめされ
乗次に四千石賦賜ひ宗真小八三千石
と賜ひく宗領きく一と命せしる
こまより宗次父の名跡と継ぐ二千
石と知りて家侍慶安元年十月清小性組
乃番頭とるをこれ也
御日記家侍の今の寄合松
平小登次宗輪の祖なり

縫殿助乗次家侍は左近三次より二男あり家侍

と一は左七郎といふ寛永譜○按てはるる一は左七郎といふ

まこと七郎之郎とも左近ともいひたり

松平系譜
集家侍寛永十五年

大猷院殿次拜寛永正保二年父没し

しる時遺跡はうま四千石と分ちたり

由りては家侍○乗次貞享元年加増ありて一万六千石賦
領ひ今以南河極類譜松平主水正乗尹の祖なり

松平

但馬守源知乘しんし八和泉守家系いせより二男

あり美濃子生る寛永譜とくめハ内通助と

いひのち内通氏小作日向守ともいふ

元和二年十一月江戸にまゐりて

台徳院殿小まゐりてえたて申すに十二月

より中奥に候へ又清小姓とあり家譜

同くは三年十二月廩米五百俵にあり